# Re:ナナから始まる異世界生活　リメイク

ホミキ

## 【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

セフィロスとの戦いが終わり、ストライフデリバリーサービスを始めたクラウド（アドベントチルドレン）愛用のバイクフェンリルでエンジンを燃やして、荷物を届けてる最中にいきなり異世界に飛ばされてしまった、しかも、ソルジャークラス１ｓｔの服装で武器は初期のバスターソード、

フェンリルもどこかに行ってしまい、異世界知識がゼロに近いクラウドは、果たして元の世界に帰れるのか？

今作品はＦＦ７とリゼロのクロスオーバーです

前に投稿してた小説をリメイクしました

前回とかなり話が変わっているので、よかったら前回のも見てみてください

今回は完全なる台本形式ですので、苦手な方は、閲覧を推奨しません

# 目次

第一章王都の一日編
私達にとって終わりの始まりである ―― 1
ナナから始まる異世界生活 ―― 15
第二章　屋敷の1週間編
出会い ―― 33
執事クラウドの一日 ―― 46
俺がお前の生きた証 ―― 52

# 第一章王都の一日編
## 私達にとって終わりの始まりである

カドモン「兄ちゃん、街中でなんて物騒なもん背負ってんだ」
クラウド「‼?」
カドモン「そんな覇気のねぇ顔でっったんてるんだったら、ほら、リンガ買ってかねぇか⊠」
クラウド（…どう見てもりんごじゃないか？いやこの都市でのなまりか？いやそんな事はどうだっていい）
クラウド「あんた、ここはどこなんだ？」
カドモン「はぁ？どこってここはルグニカだろう？寝ぼけてるのか⊠それより兄ちゃんリンガ買うのか？買わねぇのか⊠」
クラウド「いやもらっておこう、いくらだ？」
カドモン「ここに書いてあんだろ‼?はぁ全く文字も読めねぇのか？」
クラウド「生憎だが、俺はこの国のものじゃないんでね、１０ギルくらいか？ほら」
カドモン「はぁ⊠なんだその金？そんなのルグニカじゃ使えねぇよ！ほら商売の邪魔だ‼?どいたどいた」
クラウド「…」
クラウド（ここはどこだ⊠俺は確か、フェンリルに乗って荷物届けてたはず‼?それなのになんで俺は、見知らぬ街で佇んでいるんだ‼?）
クラウド「…」チラ
街中の人「なんだ、あいつ背中に物騒なもの背負ってるぞ」
街中の獣人「怖いわねぇ」
クラウド（流石に、こんな白い目で見られるのは、いい気分じゃない、どこかに隠れるか）
クラウド「」スタスタ
クラウド（あれは路地裏か…ちょうどいい人も居なさそうだし、休

憩するか）
クラウド（）スタスタ
クラウド（‼?）
カン「なんだぁぁぁこれ？」
トン「なんかの乗り物か⊠」
チン「にしても珍しいものだし、高ネェで売れるんじゃねぇぇーか⊠」
クラウド（あれは‼?フェンリル‼?）
説明しようフェンリルとはクラウドが愛用しているバイクである特徴かっこいい
クラウド「触るな」
トン「‼?」
チン「‼?」
カン「‼?」
カン「なんだぁぁぁテメェ‼?」
トン「ちょうどよかった、この兄ちゃんに、これの使い方聞こうぜ⊠」
チン「ついでに、みぐるみ全部置いていってもらおうかぁぁぁ‼?」
クラウド「どこの世界でも、チンピラはいるんだな、」
クラウド「かかってこい‼?」ジャキン‼?
クラウド「これは‼?」
クラウド（バスターソード‼?、合体剣じゃない⁉?しかも今の俺の服、ソルジャーの服じゃないか！）
トン「どうしたんだ？構えたまま動きが止まってるぞ」
チン「まさかビビってんじゃねぇのか⊠」
チン「だったら」ジャキン
チン「こっちからいってやろうぜ」
チン「オラッ‼?」ブンッ‼?
クラウド（‼?）
クラウド「‼?」キン‼?
チン「うおっ！」

クラウド「イヤッ！」ズバッ‼？
チン「ぐわあぁぁあ‼？」
クラウド「少し考え事をしてただけだ」
クラウド（相手は三人、一人ナイフを持っているが）
トン「テメェ‼？このやろ‼？」
クラウド「悪いがあんたらは、俺の敵ではない、諦めろ」
カン「ふざけ「そこまでよ‼？」
トン、カン、クラウド「☒」
銀髪の女性「そこまでよ、今なら許してあげる、だから盗んだものを潔く返して」
トン、カン、クラウド「盗んだもの？」
クラウド「あんたら、何盗んだんだ☒」
トン「いや俺らは何もしらねぇよ‼？」
銀髪の女性「とぼけないで、あれは大切なものなの、他のものならあきらめもつくけど、あれだけは絶対にダメいい子だから大人しく渡して」
カン「訳わかんねぇこと言ってんじゃねぇよ‼？」
トン「なんだったら姉ちゃんもみぐるみ置いてくか☒」
銀髪の女性「三体一かしら？」
クラウド（三体一☒いや三人目は俺が倒したはず）
猫みたいな精霊「女の子に三体一は不公平だよ」
クラウド（喋った）
トン「おいあれって！」
カン「精霊じゃねぇか逃げるぞ‼？」
トン「おい、チン行くぞ‼？」
クラウド「☒」
猫みたいな精霊「君は僕をみて逃げないなんて、すごいね～」
銀髪の女性「まぁいいわ、さぁ諦めて、盗ったものをだしなさい」
猫みたいな精霊「出さないのなら！「待て」
クラウド「俺はあいつらの仲間じゃない、絡まれただけだ」
銀髪の女性「本当☒」ジー

クラウド「…」
クラウド「／／／」サッ
銀髪の女性「今！やましいことがあるから目を逸らしたんだ、私の目に狂いはないようね」
猫みたいな精霊「そうかなぁ、今のは男の子の健全な反応だと思うよ」
クラウド「べっ別に恥ずかしかった訳じゃない…」
猫みたいな精霊「へ～」
銀髪の女性「それよりあなた私から紀章盗んだ子知ってるでしょ？」
クラウド「紀章って身分を証明する奴か？」
銀髪の女性「そう、真ん中に宝石が埋め込まれていてこのくらいの大きさなんだけど」
クラウド「悪いが、知らないな」
銀髪の女性「いや嘘！なら本当に回り道しちゃっただけ？」
猫みたいな精霊「となると、他を探さないといけないね」
銀髪の女性「そうね」スタスタ
クラウド（大変そうだな）
クラウド（いや待てよ）‼？
クラウド（紀章を持ってるって事は少なくとも身分が高い人物、俺は残念ながら一文無しだし、また何でも屋を始めた方がいいんじゃないのか☒）
クラウド（）チラ
銀髪の女性「」スタスタ
クラウド（俺に、できるのか？俺に宣伝はできるのか？今まではティファやマリン最近はデンゼルが宣伝してくれたおかげで、俺はやってこれた）
クラウド（）チラ
猫みたいな精霊「さっきからどうしたの～チラチラこっちみて」
クラウド「」‼？
銀髪の女性「何、今は急いでいるからちょっとしか付き合ってあげ

れないのだけれど？」
クラウド（いや頑張れクラウド・ストライフ、今やらなきゃチャンスは二度とこない）
クラウド「その、俺は何でも屋だ」
猫みたいな精霊「何でも屋⊠へ～それってもの探したりもしてるの？」
クラウド「そうだ、」
銀髪の女性「悪いけど、私今お金持ってないの」
クラウド「」！
クラウド「何！」
クラウド（だめだ、ティファ、俺に宣伝なんて無理だ）
銀髪の女性「じゃあ私、忙しいから行くね」
クラウド（そんな！ちょっと待ってくれ！」
猫みたいな精霊「まってリア」
銀髪の女性「どうしたの？」
猫みたいな精霊「ね～君、報酬は後払いでもいい～？」
クラウド「？大丈夫だが、消して安くはないぞ？」
猫みたいな精霊「じゃ～あ～」
猫みたいな精霊「この子とデート1回分なんてどうかな？」
銀髪の女性「？でぇと？」
クラウド「…‼？」
クラウド「いいだろう」
クラウド「よし、そうと決まれば行くぞ」スタスタ
クラウド「…」
クラウド（エアリス…）
クラウド「乗れ」
銀髪の女性「ずっと気になってたんだけど、その乗り物は何？」
クラウド「バイクだ、これで移動が楽になる」ブルルルンッッ‼？
銀髪の女性「きゃ！」
銀髪の女性「びっくりしたー！」
猫みたいな精霊「ひょっとして、ミーティア⊠」

クラウド「ミーティア⊠」
銀髪の女性「確かにそう言われれば納得できるわ」
クラウド「まぁいいだろうとにかく乗ってくれ」
銀髪の女性「ここに跨がればいいのかな？」
クラウド「しっかり捕まってろ、あんたはどうする？」
銀髪の女性「どうするパック？姿消しておく？」
猫みたいな精霊「いや、僕も初めて見る乗り物にワクワクしてるんだ、リアに捕まっておくよ」ピタ
クラウド「よし、行くぞ」ブゥゥゥゥゥンッッ‼？
銀髪の女性「わ～すごい！」
猫みたいな精霊「風を感じるね～」
銀髪の女性「そういえば、どこに行くの⊠」
クラウド「…」
銀髪の女性「まさか、ノープラン？」
クラウド「…」
猫みたいな精霊「言っておくけど、ルグニカ王国はかなり広いよ～、何も考えなしじゃ人探しなんてとてもできないよ～」
銀髪の女性「それより、今ここどこかわかってる？」
クラウド「…」
クラウド「…頼む、案内してくれ」
銀髪の女性「じゃあ、説明しやすいように、高いところに行って、」
クラウド「…わかった」ブゥゥゥゥゥンッッ‼？

キキーッ‼？
クラウド「ついたな」
クラウド「降りるぞ」
銀髪の女性「よいしょっ」
銀髪の女性「とりあえずあそこの階段を登って説明するわ」スタスタ
クラウド「わかった」スタスタ
銀髪の女性「そういえば、あなた名前は？」

パック「そういえばお互い名前も聞いてなかったよね？自己紹介しておく？」
クラウド「…」

回想
ティファ「クラウド、ビジネスは信頼が大切なんだよ、自己紹介、相手の名前を覚えるのは常識だよ。」
クラウド「わかった」

終了

クラウド（ビジネスは信頼が大切）
クラウド「クラウド・ストライフ…自称ソルジャークラス１ｓｔだ…」
銀髪の女性「そるじゃあ⊠何それ？」
クラウド「‼？」
クラウド「ソルジャーは神羅カンパニーの治安維持部隊の優秀な奴がなれる！」
銀髪の女性「しんらかんぱにぃ？」
クラウド「神羅カンパニーは、ミッドガルを作った巨大企業知らない奴はいないはずだぞ！」
銀髪の女性「どれも初めて聞いたわ、クラウドは田舎の国から来たの⊠」
クラウド「田舎育ちではあるけれど…」
クラウド（前まで魔晄は世界に必要不可欠なエネルギーだったはず！この国は魔晄で生活していないのか⊠）
クラウド「まぁいいか、それより、あんたらの名前が聞きたい」
猫みたいな精霊「じゃあ僕から、」
猫みたいな精霊「僕はパック！」

パック「よろしく～」
銀髪の女性「精霊とこんなに接する人はじめて見た」
クラウド「精霊、というものは知らないが、似たような奴らがいっぱいいるから、特に珍しくないな」
パック「しかしよく見るとクラウドって意外といい体してるよね？」
クラウド「当たり前だ、ソルジャーだからな」ドヤ
銀髪の女性「そのそるじゃあって言うのはよくわからないけど、クラウドの手」ギュ
クラウド「／／／／な！」
銀髪の女性「戦う人の手をしてる、いくつも戦闘を重ねてきた、戦士の手、それでいて、疲れてる」
クラウド「／／／／も、もうわかった、離せ、」
パック「クラウド、照れてる～？」
クラウド「照れてない」
クラウド「そういえばあんたの名前は？」
銀髪の女性「私の名前？」
銀髪の女性「私は…」
銀髪の女性「サテラ」
パック「‼？」
サテラ「家名はないのサテラとそう呼ぶといいわ」
クラウド「サテラか…わかった」
パック「ふー趣味が悪いよ」

サテラ「ねぇクラウドあの子迷子になってる気がしない？」
クラウド「迷子か…迷子を助けるのも何でも屋の仕事だ」
サテラ「ありがとう、クラウド」
サテラ「探してた相手じゃなくてごめんねお父さんやお母さんは一

緒じゃないの？」
ユウ「う！うぅ！」
サテラ「えっとその泣かないでお姉ちゃんは何もしないから、ほらクラウドも」
クラウド「あ、ああ」
クラウド「両親はどんな奴らだ」
ユウ「うわぁぁん‼？」
クラウド「！」
サテラ「クラウド！もっと泣いちゃったじゃない！」
クラウド（どうする、俺に子供をあやす事なんてできないぞ、どうすれば）
クラウド「！」
クラウド（そういえばあれがあった！）
クラウド「すまなかった、お詫びにこれをやる」
ユウ「！」
ユウ「可愛い！お兄ちゃんこれ何⁉」
クラウド「モーグリ人形だ」

回想
ティファ「クラウド、もっと笑顔にならなくちゃ、子供に泣かれちゃうよ？」
クラウド「そんなこと言われても、俺には無理だ」
ティファ「困ったなぁ」
マリン「そうだ」！
ティファ「どうしたのマリン？」
マリン「もし子供に泣かれたらこれをあげて！」
クラウド「これは☒」
マリン「モーグリ人形、今子供に、特に女の子に人気だから、ほらクラウドよく女の子に泣かれること多いでしょ☒」

クラウド「…」
終了

クラウド（ありがとうマリン、俺はいつもお前達に助けられてばかりだな）
ユウ「あ！ママ！」
サテラ「見つかってよかった」
ユウ「お姉ちゃん！お兄ちゃん！バイバーイ‼？」
サテラ「バイバーイ、ふー見つかってよかったね」
クラウド「なぁサテラ」
サテラ「どうしたのクラウド？」
クラウド「今ので遠回りになったが、サテラにはなんの得があったんだ？」
サテラ「決まってるじゃない」
サテラ「あの子を助けたことで、私達は気持ちよく、探すことができる」
サテラ「クラウドも、何でも屋の仕事とか言って本当はあの子を助けたかったんでしょ？」
クラウド「興味ないね」
サテラ「フフ」
クラウド「なんだ？」
サテラ「ツンツンしてるけど、本当はやさしい子なのね」
クラウド「子？年下扱いか？俺たちはそこまで年差ない気がするんだが」
サテラ「その予想は当てにならないと思う、私ハーフエルフだから」
クラウド「ハーフエルフ？」
クラウド「なぁ」

サテラ「何？」
クラウド「何が問題なんだ⊠」
サテラ「…」キョトン
サテラ「フフ」
クラウド「おいどうしたんだ？」
サテラ「もうクラウドのおたんこなす！」
クラウド「…」⊠
サテラ「それより、探し物の続きを始めましょう」
クラウド「待て、これ以上探してもらちが開かない、サテラ、紀章を盗まれたのはどこだ」
サテラ「え～と確か…リンガ屋さん！」
クラウド「それってまさか」

カドモン「なんだありゃ？」
クラウド「ここか…」
カドモン「なんだ誰かと思えば無一文の兄ちゃんか？なんだ、その後ろの姉ちゃんがリンガ買ってくれるのか？」
クラウド「いや、互いに金はない」
カドモン「で無一文が二人になったところで何ができるんだ？」
クラウド「実は人を探しているんだだから情報収集を「文無しに付き合ってられねぇよ！帰った帰った‼？」
クラウド「待て」
カドモン「まだなんがあるのかよ‼？」
クラウド「俺は何でも屋だ、あんた何か困ってる事はないか？」
カドモン「…いい加減商売のじゃまだからどけ！」
ユウ「お兄ちゃん！」
クラウド「？」
カドモン「ユウ？」
クラウド「知り合いか？」

カドモン「知り合いも何も、ユウは俺の娘だ」
ユウ「お姉ちゃん！お兄ちゃん！」
サテラ、クラウド「」？
ユウ「はい！」サッ
ユウ「お花！」
母「もらってあげてくださいこの子なりに恩返しがしたいんです」
サテラ「わ～ありがとう」
クラウド「…」
クラウド「花…か…」
カドモン「すまなかったな
娘の恩人だお礼がしたい」
サテラ「ほらね
ちゃんとめぐりめぐりって私たちのためになったじゃない？」
クラウド「あぁ…あんた、最近この辺でスリとか流行ってたりしないか？」
カドモン「スリ？兄ちゃん達何か盗まれたのか？」
クラウド「あぁ」
カドモン「そいつの特徴とかは？」
サテラ「え～と、確か金髪の女の子だったような」
カドモン「金髪か…」
カドモン「ひょっとすると、フェルトのやつかもしれねぇな」
クラウド「そいつの場所が分かったりしないのか？」
カドモン「町外れのスラムの方だろ？」
クラウド「わかった…」
サテラ「ありがとうございます‼？」
カドモン「おう！次は金持って来いよ‼？」
ユウ「お姉ちゃん、お兄ちゃん、バイバーイ‼？」
クラウド「!!」←サムズアップ
ガチャ
ブルルルンッッ
ブゥゥゥゥゥゥンッッ‼？

サテラ「とりあえず、スラムの方に着いたね」
クラウド「あぁ、ここで、人に聞いてみるか？」
パック「みんな仲間を売ったりしないから無理だと思うよ
進むにしても戻るにしても決断は早めにね僕はそろそろ時間切れだ」
クラウド「時間切れ？」
パック「僕はこう見えても精霊だから姿を出すにも結構まなを使っちゃうんだ。まぁ平均的には9時、5時が理想かな」
サテラ「無理させてごめんね。あとは私たちでなんとかする、ゆっくり休んで」
パック「いざという時は、僕を呼んでよ？じゃあねクラウド」
クラウド「さて、話を戻そう、聞き込みもできない状態でフェルトをどうやって見つけるか」
サテラ「微精霊に聞いてみる？」
クラウド「微精霊？」
サテラ「精霊の前の姿。成長するとパックみたいな精霊になるの」
クラウド「そうか」
クラウド「それで、微精霊は、なんて言ってるんだ？」
サテラ「あっちの方向らしいよ」
クラウド「よし、行くぞ」

クラウド「ここか⊠」
サテラ「行ってみよう」
サテラ「ねぇクラウド？」
クラウド「なんだ？」
サテラ「盗まれたものなのになんで交渉するのかな？」
クラウド「俺は一回スリにあったことがあるが話せば返してくれる、俺が話しつけてくる、もしもの時は力ずくだ」
サテラ「子供に可哀想な事しないでねクラウド」

クラウド「わかった、じゃあ俺が先に入るからサテラは後から入ってきてくれ」
サテラ「気をつけてね」
サテラ「…」
クラウド「…」？
クラウド「なんだ？」
サテラ「何でもない！紀章取り戻せたらちゃんと謝るから」

# ナナから始まる異世界生活

クラウド「よし行くぞ」
クラウド「」ガチャ
ロム爺「‼?」
フェルト「‼?」
クラウド（体がでかい老人と、…）
クラウド（金髪の女の子、間違いないな）
フェルト「なんだ兄ちゃん、盗みの依頼か?」
クラウド「違う」
フェルト「はぁーあんた、今は忙しいんだ、交渉するならまた違う日にしてくれ」
クラウド「俺はあんたらが盗んだものを、返してもらいにきた」
フェルト「悪りぃが、交渉無しで返すわけにはいかねぇ、諦めな」
クラウド「だったら力ずくだ」ジャキン
ロム爺「なんじゃ、面倒ごと起こす気か?」
フェルト「言っておくがロム爺は強いぞ、それに、2体1に勝つつもりなのか?」
サテラ「ならこれで公平ね」ガチャ
クラウド「‼?」
ロム爺「☒」
フェルト「げ!」
サテラ「よかったいてくれて、今度は逃さないから」
フェルト「本当しつこい女だな、いい加減諦めればいいのに」
サテラ「残念だけど、諦められないものなの、大人しくすれば痛い思いはさせないわ」
クラウド「そう言う事だ、悪く思うな」
サテラ「私からの要求は一つ、紀章を返して、あれは大切なものなの」
サテラ魔法陣発動
ロム爺「ぬぅぅ」

フェルト「どうした？ロム爺」
ロム爺「ただの魔法使い相手だったらわしもひかんがこの相手はまずい」
フェルト「なんだよロム爺！喧嘩やる前から負け認めんのか☒」
ロム爺「お嬢ちゃんあんた、エルフじゃろ？」
サテラ「正しくは違う、私は半分だけエルフなの」
フェルト「ハーフエルフ？銀髪？まさか！」
サテラ「他人の空似よ！私だって迷惑してるんだから」
クラウド「…」
クラウド（ハーフエルフに銀髪？一体何が問題なんだ？）
クラウド「それはともかく、紀章は返してもらう」
フェルト「へ！いくらロム爺がビビったとしても、私は戦うかんな！」
ロム爺「わしだって戦うわい！」
クラウド「相手は二人か？」
サテラ「クラウド大丈夫？相手には巨人族がいるけど、休んでてもいいのよ？」
クラウド「言っておくが」
クラウド「俺は強いぞ」
サテラ「そう、ならよかった」
クラウド「行くぞ‼？」
ＢＧＭ闘う者たち
ロム爺「おりゃぁっっ‼？」ブン‼？
クラウド「はッ‼？」ブン
キンッ‼？
ロム爺「！」
ロム爺（あの小僧！わしの攻撃を剣で跳ね返したじゃと‼？）
クラウド「いやっ‼？」ブンッ‼？
ロム爺（それに！追撃が早い‼？）
ロム爺「グォオォ‼？」
フェルト「ロム爺‼？」

サテラ「よそ見してる余裕があるの？」
フェルト「くそっ！」
サテラ「はっ‼？」
フェルト（流石、ハーフエルフ！魔法の連射量が半端じゃない、これは本気で避けるしかない）
フェルト「‼？」ヒュン‼？
サテラ「‼？」
サテラ「まさか、風の加護‼？」
サテラ「簡単に終わりそうにないわね」
ロム爺「はぁはぁ」
クラウド「…」ジャキン
ロム爺「ぐぅ」
クラウド「終わりか？」
ロム爺「無念じゃ」
クラウド「…」
クラウド「サテラ、こっちは終わった」
ロム爺、フェルト（‼？）
サテラ「！」
サテラ「あ、わかった」
フェルト「ちょっと待てよテメェいま…」
クラウド「？」
ロム爺「今『サテラ』と言ったか☒」
クラウド「☒」
フェルト「どう言う事だよ？やっぱりあんた！「違う！」
フェルト「何が違ぇんだよ！ハーフエルフで銀髪で名前がサテラだなんて」
クラウド「☒あんたらさっきから何を言ってるんだ？サテラになんの問題が？」
ロム爺「お前さん知らないのかい☒」
クラウド「☒」
ロム爺「サテラは四百年前に世界を滅ぼしかけた『嫉妬の魔女』じゃ

‼?」
クラウド「『嫉妬の魔女』⊠」
フェルト「『嫉妬の魔女』の特徴、それは、銀髪でハーフエルフって事…」
クラウド「本当なのか？サテラ？」
サテラ「違うの‼?」
クラウド「…」
サテラ「私は…私は…サテラじゃない…」
クラウド「‼?」
フェルト「‼?」
ロム爺「‼?」
サテラ「私の本当の名前は…」
クラウド「パック‼?防げっっ‼?」
サテラ⊠「え⊠」
ガンッ‼?
サテラ⊠「‼?」
エルザ「あらあら、あと少しだったのに⊠」
パック「紙一重のタイミングだったね助かったよ！クラウド」
クラウド「あんた誰だ」
フェルト「あんた！依頼主の‼?」
サテラ??「貴方ね！私の紀章を盗もうとしたのは！」
エルザ「ええそうよ～ハーフエルフさん、それよりも、精霊と契約してるのね⊠」
パック「やぁ」
エルザ「精霊ねぇ素敵精霊はまだお腹を割って見たことなかったの」
フェルト「おい、どうゆう事だよ！」
エルザ「持ち主まで連れてきたら商談なんてとても。だから予定を変更したのよ、ここにいる関係者は全員皆殺し、貴方は仕事をまっとうできなかったのよ。口だけ達者なだけでお粗末な仕事ぶり、所詮は貧民街の人間ね」

フェルト「なんだと！」
クラウド「あんたが誰だか知らないが、スラムの人間は常に死と隣り合わせで生きている…親もいない奴もいる…こいつは子供なのに盗みを行なっている…全部生きるためだ、」
クラウド「フェルトを馬鹿にするな‼？」ジャキン‼？
エルザ「言いたいことはそれだけ？なら貴方から殺そうかしら？」
クラウド「言っておくが、俺は強いぞ」
クラウド「あんたらどうする⊠」チラ
ロム爺「わしは、お前さんのせいでへとへとじゃ休ませてもらうぞ」
フェルト「私は戦うぞ、こんなところで死ねるかってんだ」
サテラ？「私も！「リアは休んでて」
サテラ？「パック！」
パック「正直僕一人でも十分だけど、今ちょっと眠いから、ふぁ～、そうな長くは持たないや」
エルザ「あらあら、三人も相手してくれるの⊠それはとっても」
エルザ「楽しみだわ」
クラウド「来るぞ‼？」
フェルト「くっ！」
パック「ふふん♪」
ＢＧＭ更に闘う者たち
パック「ご期待に応えようぞ！」
パック「まだ自己紹介もまだだったね、僕の名前はパック、名前だけでも覚えていってね」
クラウド（氷魔法？あの威力はブリザドぐらいか？だがパックは一体どこにマテリアをはめてる？）
ロム爺「やりおったか？」
クラウド「まだだ」
エルザ「備はしておくものね、」
ロム爺「ダメか！」
エルザ「フフ、精霊は流石に厄介ね？それなら」ヒュ！
クラウド「‼？」

クラウド（まずい！）
クラウド「サテラ！」
サテラ☒「安心して」
エルザ「へぇ～精霊術者もやるものね～☒」
サテラ「あまり、精霊術者を舐めないで」
クラウド「ふん！」ブンッ‼？
エルザ「あら？大剣にしては振りが早いじゃない？でも」
クラウド「クッ！」ヒュン
エルザ「私からしたらちょっと足りないかも☒」
フェルト「やぁっ‼？」ヒュンッ‼？
エルザ「あら？風の加護？世界に愛されているのね？」
フェルト「なんだよこいつ！全然あたんね！」
エルザ「あまり剣を振りすぎると、」
フェルト「‼？」
エルザ「お腹が、お留守になるわよ☒」ヒュン！
フェルト「ぐぅっ‼？」
ロム爺、「！」
ロム爺「フェルト‼？」
エルザ「まずは、一人かしら☒」
パラパラ
ロム爺「くっ！フェルトの敵‼？」
フェルト「勝手に殺すな‼？」
ロム爺、エルザ「！」
エルザ「あらあらどうして生きているのかしら☒」
クラウド「俺がやった」

エルザ「お腹がお留守になるわよ？」
クラウド（まずい！あの攻撃は確実に死ぬ！時間がない、少ししか

回復しないが）
クラウド（ケアルを使おう）
クラウド：ケアル→フェルト

エルザ「へ～凄いわ～あんな短時間で、治療魔法を発動できるなんて」
パック「これには僕も驚いたよ！クラウド！君は魔法も使えるんだね♪」
パック「おっと、よそ見はよくないよ？」
エルザ「よそ見するくらい余裕があるのよ？」
パック「凄いなぁ僕の攻撃を全部避けるなんて」
エルザ「あら？精霊に褒められるなんて光栄だわ」
パック「戦いなれしてるな～、女の子なのに」
エルザ「あら？女の子扱いされるなんて何年ぶりかしら？」
パック「僕からしたらみんな子供みたいなものだからね」
エルザ「フフッ」
クラウド「何がおかしいんだ☒」
エルザ「精霊に治療魔法を短時間でできる男に、風の加護をもつ女…」
クラウド、フェルト「☒」
エルザ「フフ／／／こんな楽しい戦い久しぶりだわぁ／／／」
フェルト「うげぇなんだあいつ☒」
クラウド「戦闘狂か…」
パック「ごめんね、お楽しみのところ悪いけど」
エルザ「☒」
パック「僕はそろそろ、眠いから、これで終わらせてもらうね」
エルザ「せっかく楽しくなってきたのに連れないわね～」
パック「モテる、オスの辛いところさ、女の子は寝かせてくれない

んだから、でもそろそろ終焉と行こうか」
エルザ「☒あら☒」

パック「僕だって闇雲にうってたわけじゃにゃいんだよ」
クラウド「足が凍ってる☒」
エルザ「してやられたってことかしら？」
キーーーーーーーー
ロム爺「‼？」
ロム爺「なんてでかい魔法陣じゃ☒」
クラウド「ブリザガか？」
パック「おやすみ‼？」
ずごごごごごごん‼？
クラウド「フェルト！離れろ‼？」ダッ‼？
フェルト「言われなくても‼？」ダッ‼？
ぱらぱら
パック「♪」
クラウド（あの余裕は一体☒）
ロム爺「今度こそやったか☒」
ぱらぱら
クラウド「まだだ」
エルザ「あぁ／／／素敵、死んじゃうかと思ったわ／／／」
フェルト「‼？」
サテラ☒「‼？」
ロム爺「‼？」
フェルト「あいつ！自分の脚を切って！」
パック「女の子なのにそれは感心しないなぁ」
サテラ「パック、まだいける？」
パック「ごめん僕すごく眠い、舐めてかかってた」
サテラ「後はこっちでどうにかするから、後は休んで、ありがとう」
パック「いざという時は無理にでも呼び出してね」
エルザ「いなくなってしまうの？それは酷く残念なことだわ」

エルザ「残りは二人って事でいいのかしら☒」
サテラ☒「いいえ☒」
キーーーーーーー
エルザ「☒」
サテラ☒「三人よ」
ヒュンヒュン‼？
エルザ「さっきよりは物足りないけど、デザートってところかしらね？」ダッ‼？
ロム爺「そろそろ見てるだけではいかんの」
サテラ☒「！」
エルザ「守ってるばかりじゃあつまらないわよ☒ハーフエルフさん？」キンッ‼？キンッ‼？
サテラ☒「本当にそう思う☒」
クラウド「はぁぁ‼？」ブン‼？
フェルト「はぁぁ‼？」ヒュンッッ‼？
ロム爺「おうりゃぁぁ‼？」ブンッッ‼？
エルザ「ぅっ！」
ゴロゴロ
エルザ「はぁはぁ」
フェルト「やっと、攻撃が当たったな」
エルザ「いい…」
フェルト「な‼？」
エルザ「いい‼？いい‼？いい‼？凄くいいわぁ／／／もっと、もっと殺し合いましょう／／／」
フェルト「ヤベェ！火付けちまった‼？」
エルザ「フフ／／」ヒュン
フェルト「なっ！」
クラウド「フェルト‼？」
フェルト「うおっ‼？」スカッ！
クラウド「くっ‼？」
エルザ「人の心配してる場合☒」

クラウド「‼?」ブンッッ
エルザ「フフフ／／」
クラウド（ダメだ、さっきとは比べものにならないくらい早い！）
ロム爺「それっ‼?」ブンッ‼?
エルザ「フフ」ヒュン
ロム爺「なっ！どこじゃ☒」
エルザ「貴方が力持ちだからこんなこともできたのよ?」
ロム爺「な、‼?わしの棍棒の上に」
エルザ「楽しかったけどまずあなたからトドメを刺そうかしら」
フェルト「そうはさせるか‼?」
エルザ「気が変わったわ、」
フェルト「なっ！」
エルザ「貴方から頂くわ／／」
ロム爺「フェルト‼?」
フェルト「グッ‼?」
フェルト「…」
フェルト「…」
フェルト「?」
クラウド「‼?」
サテラ☒「‼?」
フェルト「?」
フェルト「‼?」
フェルト「あ、あ‼?」
ロム爺「ぐっ…」
エルザ「これで一人目かしら☒」
フェルト「ロム爺ぃぃぃぃ‼?」
クラウド「くっ‼?」
クラウド：リジェネ↓
エルザ「二度も許すと思う☒」ヒュンっ‼?
クラウド「くっ‼?」キンッ‼?
フェルト「おい！ロム爺‼?しっかりしろ‼?」

ロム爺「フェ…フェルト…逃げるんじゃ…」
フェルト「ふざけんな!!?じじぃ!!?私を置いていくんじゃねぇよ!!?」
エルザ「茶番はそれくらいにしてもらえるかしら☒」
サテラ☒「じゃない…」
エルザ「☒」
サテラ☒「茶番なんかじゃない!!?」ゴォォォ
クラウド「！」
エルザ「やっと本気ってところかしら☒ハーフエルフさん」
サテラ☒「今のうちよ！」
クラウド：ケアルダ↓ロム爺
ロム爺「ぐぅぅすまん、助かった」
クラウド「あんたら、逃げろ」
ロム爺「!!?」
フェルト「!!?」
フェルト「なんだよ！ロム爺はともかく私にまでけつまくってにげろって言うのか☒」
クラウド「フェルトが死んだら…」
クラウド「大切な人が傷つくだろ？」
フェルト「!!?」
クラウド「逃げろ!!?」
フェルト「…」
クラウド「早く!!?」
フェルト「すまねぇ、この恩ぜってぇー忘れねぇ！」
エルザ「いかせると思う？」
クラウド「させるか!!?」ダッ!!?ブン!!?
エルザ「フフ」ヒュン
クラウド「…」
クラウド（ダメだ、攻撃が当たらない、さっきと同じ手はもう聞かないだろうな、）
クラウド（隙を作れば、）

クラウド（隙を作れば、麻痺状態にできる）
クラウド「はぁぁっっ‼?」ブンッ‼?
エルザ「だんだん、振りが荒くなってきたわね?そろそろ潮時かしら☒」
クラウド「そうだな…」
エルザ「どうしたの、まさか諦めたりなんかしてるのかしら☒」
クラウド「いや、俺はそろそろ、」
エルザ「☒」
クラウド「…」
クラウド「限界を超える」
ピコン
クラウドリミットゲージＭＡＸ
エルザ（青く光った☒）
クラウド「サテラ‼?こいつの隙を作れ‼?」
サテラ☒「わかった」ヒュンヒュン
エルザ「あらあらその指示は、自ら作戦を教えているようなものよ?」
クラウド「くっ‼?」
クラウド（やっぱりダメだ、隙がない一体どうすれば?）

☒「そこまでだ」
クラウド「‼?」
サテラ☒「‼?」
エルザ「‼?」
サテラ☒「貴方は‼?」
☒「…」
サテラ☒「ラインハルト‼?」
ラインハルト「覚えていただき光栄です、」
クラウド「誰だ☒」
ラインハルト「初めまして、俺はラインハルト、君は～変わった髪

型と服装をしているね？」
クラウド「うるさい、俺はクラウド・ストライフ」
ラインハルト「そうかよろしくクラウド、ところで貴方は…」
ラインハルト「その黒い髪に北国特有の剣、それだけ特徴が有れば見間違えたりはしない君は腸狩りだね？」
エルザ「剣聖の騎士ラインハルト、すごいわ、こんな楽しい敵ばかりなんて／／／」
ラインハルト「いろいろ聞きたいこともございます、同行をお勧めしますが？」
エルザ「極上の肉を目の前にして、飢えた肉食獣が我慢できると思う？」
ラインハルト「クラウド少し離れていて、あの子のそばにいてくれると助かる」
クラウド「あ、あぁ」
ラインハルト「武器はこれでいいだろう」
エルザ「その腰の剣は使わないの？」
ラインハルト「この剣は本当にピンチになった時しか使えないのさ」
エルザ「あら？安く見られてるのね？」ヒュン‼？
ラインハルト「！」キンッ
エルザ「噂通りいえ、噂以上の存在なのね」ヒュンヒュンッッ‼？
ラインハルト「ご期待に添えるかどうか」キンキン‼？
ラインハルト「ふんっ！」
エルザ「あら☒」ボロ～
ラインハルト「武器を全て失ってしまいましたがご同行願えますか？」
エルザ「いいえまだよ、刃がなければ骨を骨がなければ命を」
ラインハルト「これ以上戦闘長引かせるのも、面倒ですね、なら」
ラインハルト「アストレア家の剣撃で終わらせてあげましょう」
エルザ「聖剣様の本気を見れるなんて嬉しいわ／／／」
ゴオオオゴオオオッッ‼？

クラウド「なんだあの青い光☒」
クラウド「まずい‼？サテラ‼？」
クラウド：バリア→サテラ☒
サテラ☒「え☒」
ラインハルト「‼？」
クラウド「くっ‼？」ガード
ドゴゴゴゴゴンッッ‼？
ぱらぱら

サテラ☒「終わったの？」
クラウド「終わった…」
クラウド「…」
サテラ☒「どうしたのクラウド☒」
クラウド「なんでもない…」
クラウド「…」
クラウド（出番を奪われた…）
クラウド「…ラインハルト…だったか？」
ラインハルト「そうだけど？」
クラウド「何故、俺達のピンチに駆けつけれた☒」
ラインハルト「実はね、」
フェルト「…」
クラウド「フェルト！」
ラインハルト「彼女らが走り回って助けを呼んでいたんだ」
クラウド「…」チラっ
クラウド「めぐりめぐって俺たちのためになるか」
サテラ☒「クラウド…」
クラウド「なんだ」
サテラ☒「ごめん‼？」ぺこ
クラウド「☒」
クラウド「別に謝られることをされた覚えはない」
サテラ☒「いいえずっとしてたの…私」

クラウド「…」
サテラ☒「私はこれ以上、クラウドを問題に巻き込みたくなんかなかった、だから…」
サテラ☒『嫉妬の魔女』の名前を使った」
クラウド「…」
サテラ☒「本当にごめんなさい」
クラウド「じゃあ」
サテラ☒「…」
クラウド「おまえの本当の名前を教えてくれ、もう仕事は終わりだが、覚えておきたい…」
サテラ☒「私は…」
☒☒「…わたしはエミリア」
クラウド「エミリアか、……」
クラウド「良い名前だ」
エミリア「‼?」
エミリア「ありがとう！」
ガタッ！
エミリア「‼?」
ラインハルト「‼?」
ラインハルト「クラウド‼?危ない‼?」ダッ‼?
エルザ「‼?‼?‼?‼?」ダッ‼?
クラウド「いい加減…」
クラウド：ファイラ→エルザ
クラウド「爆ぜろッッ‼?」
ラインハルト「‼?」
エルザ「あぁ！」ダンッ‼?
エルザ「ぐぅっ！」ザーッ‼?
ラインハルト「そろそろ諦めたらどうだ?腸狩り?」
エルザ「いいえ、まだよ、次会った時は、貴方達全員のお腹を裂いてあげる、その時まで」
エルザ「…」トンっ！

エルザ「腸を綺麗にしておくことね」ピシュンッ！
ラインハルト「待て‼？は～逃げられたか…」
ロム爺「…」
フェルト「…」
エミリア「ねぇラインハルト☒」
ラインハルト「なんでしょうかエミリア様」
エミリア「あの子達はどうなるの☒」
クラウド「‼？」
ラインハルト「…」
ラインハルト「職務上、見逃す事は出来ない部類であると考えます。しかし…」
エミリア「…」
クラウド「…」
ラインハルト「生憎今日は非番なので」
クラウド「…」
エミリア「悪い騎士様ね」
フェルト「おいあんた！」
エミリア「どうしたの？」
フェルト「命を救ってもらったんだ。恩知らずな真似は出来ねえ。盗ったものは返すよ」
クラウド「ふっ、これで仕事も終わりか…」
エミリア「そうだね、長い時間ありがとう、クラウド…それと報酬のでぇとなんだけど☒」
クラウド「今回は報酬無しでもいい、」
エミリア「そんな、何もしないでこんなに手伝ってもらったんだもの！せめてお礼ぐらいさせてよ！」
クラウド「そんなこと言われたって…」
ラインハルト「これは!!!」
クラウド「☒」
エミリア「☒」
フェルト「☒」

ラインハルト「な、なんてことだ…‼?」
フェルト「おいおい。どうしたんだテメぇ」
ラインハルト「君の名前は！」
フェルト「ふぇ、フェルト・・」
ラインハルト「家名は！年齢はいくつだい!?」
フェルト「家名なんてねえよ。多分１５くらい・・・てか放せよ!!」
クラウド「なんだ？」
ラインハルト「エミリア様。先ほどの約束は守れなくなりました。彼女の身柄は私が預からせてもらいます」
クラウド「‼?」
ロム爺「何…じゃと…⊠」
エミリア「え・・？一体どういうこと?徽章盗難での罰というなら・・・」
ラインハルト「それも決して小さな罪ではありませんが目の前の光景を見過ごす罪深さに比べれば些細な事に過ぎません。」
ラインハルト「ついてきてもらいたい。すまないが拒否権は与えられない」
フェルト「ちょっとまってくれよ、うっ！」
ロム爺「貴様フェルトに何しおった？」
ラインハルト「大丈夫です眠ってもらってるだけです」
ラインハルト「では、ここで私は失礼します、」
クラウド「待て」
ラインハルト「？」
クラウド「一つ聞かせろ、」
ラインハルト「答えられる範囲ならば」
クラウド「そいつの安全は保証できるのか？」
ラインハルト「それは安心してください、私は騎士の端くれです」
クラウド「そうか…」
ロム爺「ふざけるなぁ、！わしの家族をどこへ連れて行くつもりじゃ！」
ラインハルト「すまない」

クラウド「…」
エミリア「…」
ラインハルト「それではエミリア様またどこかで」ダッ‼?
クラウド「一体何が⊠」
エミリア「そういえばクラウド」
クラウド「なんだ?」
エミリア「これからどうするつもりなの?」
クラウド「…」
エミリア「もしかして、行くあてが…」
クラウド「…」
エミリア「もし良ければ私の元で、泊めて行こうか?」
クラウド「…」
クラウド「あぁ」
ロム爺「フェルト…」

# 第二章　屋敷の1週間編

## 出会い

ブゥゥゥゥゥゥンッッ‼?
エミリア「…」
クラウド「…」
エミリア「あ！見えた‼?クラウド、あのお屋敷だよ。」
クラウド「わかった」
ブゥゥゥゥゥゥンッッ‼?

キキーっ‼?
クラウド「ふぅ」
エミリア「よいしょっ！」
クラウド「バイクはどこに留めればいい⊠」
エミリア「どこでも大丈夫よ」
クラウド「わかった」
ガチャン‼?
クラウド「…」
クラウド（それにしても、かなり巨大な建物だ、思わず見上げてしまった）
エミリア「どうしたの、クラウド⊠」
クラウド「いや、なんでもない、行こう」テクテク
エミリア「うん、じゃあ案内するね」テクテク
エミリア「…」
クラウド「…」
クラウド（庭も広いな…もはや一つの草原だ、噴水もあって、外装も気品差を感じる、）
クラウド「なぁ、エミリア」
エミリア「なーにー？クラウド⊠」
クラウド「この屋敷は、エミリアのものなのか？」

エミリア「いいえ、このお屋敷は、ロズワール辺境伯のものよ、私は住まわせてもらってるだけ」
クラウド「居候か？」
エミリア「そうね」
クラウド「居候が、勝手に、止まらせて良いのか？」
エミリア「クラウドには、紀章を取り返してくれたこともあるし、大丈夫だと思うけど☒」
クラウド「なるほど」
エミリア「そういえばクラウド」
クラウド「なんだ☒」
エミリア「お礼、まだ言ってなかったね」
クラウド「俺は仕事をしたまでだ…お礼なんて…」
エミリア「いいえ、言わせてもらうわ」
クラウド「…」
エミリア「ありがとうクラウド、貴方のおかげで紀章を取り戻せたわ」
クラウド「…」
クラウド「／／／」
エミリア「？」
エミリア「どうしたの？」
クラウド「な、なんでもない！それより、そろそろ、扉につきそうだぞ？」
エミリア「そうね！」ピタ
クラウド「…」
クラウド（扉も巨大だ、俺の背丈の倍以上は必ずある）
エミリア「開けるわよ」
クラウド「…」コク
エミリア「…」ガラガラガラガラ
レム、ラム「「おかえりなさえませ、エミリア様」」
エミリア「ただいま、レム、ラム」
クラウド「あんたら、服装からして、ここの使用人ってところか？」

レム「姉様姉様、変わった髪型をしたお方が、当たり前のことをわざわざ口にしています」
ラム「レムレム、きっと見てわからなかったのよ、あの髪形と一緒で、きっと変な思考回路なのね」
クラウド「…これは地毛だ」
レム「聞きました姉様、あの髪型で地毛だそうです」
ラム「聞いたわよレム、可哀想ね、あんな髪型が地毛なんて」
クラウド「…」
クラウド（本当は頑張って毎日セットしてるのに…あんな髪型なんて言わなくても…）←ほぼ地毛と形変わらない
エミリア「こら、からかわないの、この人は私の恩人のクラウド、今晩だけ泊まらせてあげようと思って、」
レム「失礼しました、お客様、姉様も反省しています」
ラム「失礼しました、お客様、レムも反省しています」
クラウド「…」
エミリア「とりあえず、クラウド」
クラウド「なんだ」
エミリア「戦いで疲れてそうだし、お風呂に入ってきたら？」
クラウド「わかった」
ラム「では、お客様、浴室まで案内いたします」
ラム「こちらへ、どうぞ」スタスタ
クラウド「…」
レム「…」
エミリア「どうしたのレム？」
レム「いえ、なんでもありません」

クラウド（浴槽も広いな、まるで泳げそうだ）
クラウド「…」スタスタ

クラウド（シャワーは、金色でいかにも豪華さを感じる）
キュ
ジャーーーーー
クラウド（さて、ひと段落はついたから、これからのことを考えよう）
キュッキュッ
シュポシュポ
クラウド（ひとまず今日は、こことで止まるとして）ゴシゴシ
ジャーーー
クラウド（明日からどうする、フェンリルに乗ってルグニカから出てみるか）
キュッキュッ
シュポシュポ
クラウド（いや、そもそもここは、俺が住んでた世界なのか？）ゴシゴシ
ジャーーー
クラウド（見たこともない、字、伝説、種族、もしかしてここは異世界なんじゃないのか？）
クラウド（だとしたら、早く帰れそうもな、エミリアみたいにここに居候する訳にもいかない、）
クラウド「…」
クラウド（とりあえず金だ、宿に泊まるとしても、ものを食べるにしても、金がないと話にならない）
キュッキュッ
クラウド（何でも屋をするにしても、俺に宣伝なんてできるわけがないし…ティファがいれば…）
ガラ
ラム「…」
クラウド「!!?／／／」
ラム「あら、浴槽にはつからなかったのね、お客さま」
クラウド「!!?／／／」サッ!!?

クラウド「な！…何しにきた」
ラム「…着替えを持ってきたのよ、お客様」
クラウド「…」
ラム「着替えを終わったら、寝室に案内するわ、お客様」
クラウド「わかったから、早く出て行ってくれ…」
ラム「…」
クラウド「なんだ」
ラム「…全裸でかっこつけて粗末な物を見せないで欲しいですお客様」
クラウド「…」
ラム「かっこ悪いですお客様」
クラウド「黙れ、着替えるから出てけ」

ガラ
クラウド「着替えたぞ」
ラム「なぜ室内で剣を背負ってるのかしら？かっこつけてるつもりなんですかお客様？」
クラウド「…」
ラム「…かっこ悪いわ」ボソッ
クラウド「…はー、早く案内してくれ」
ラム「でわ、寝室に案内するのでついてきてください、お客様」スタスタ
クラウド「…」スタスタ
クラウド（俺はかっこ悪くなんかない）
クラウド「…」キョロキョロ
クラウド（それにしても、広い屋敷だ、廊下が無限に感じる、）
クラウド「なぁ」
ラム「なんでしょうかお客様？」
クラウド「この屋敷には一体誰が住んでるんだ？」

ラム「それは、当主ロズワール様と私含め三人の使用人とエミリア様と一人の住人ぐらいよ、お客さま」
クラウド「この広い屋敷をか⊠」
ラム「ええ」ピタ
クラウド「屋敷の広さにあってないぞ」
ラム「それほど、ロズワール様が偉大はお方なのよ、お客様」ピタ
ラム「ここが寝室になります、お客様」
クラウド「ああ」ガチャ

ベアトリス「…」
クラウド「‼?」
クラウド「すまない、俺は子供と寝ることになるのか?」
ベアトリス「あんたと、寝るなんて願い下げかしら?」
クラウド「なんなんだこの部屋は?」
ベアトリス「ベティの書庫けん、寝室けん、自室かしら」
クラウド「そうか…」
ラム「失礼しましたベアトリス様」ぺこり
ベアトリス「…」
ガチャン
クラウド「何故この部屋の数で客人用の部屋を間違える…」
ラム「こちらが寝室になりますお客様」
クラウド「その部屋は子供の部屋…」
クラウド「‼?」
クラウド（さっきまで奥まで広がる本棚があったはずなのに、今見たら、一人で寝るには広過ぎるベットが置いてある、シンプルで気品な寝室だ）
ラム「この屋敷は少し特殊なの、お客様ベアトリス様は…」
クラウド「…興味ないね、俺は、寝る」
ラム「わかったわ…ゆっくりお休みくださいお客様」
ガチャン

クラウド「」ｚＺＺ

レム「…」
ラム「☒」
ラム「レム、どうしたの？」
レム「いえ、なんでもありません」

朝
クラウド「…ん」
クラウド「…」ぱちぱち
レム「おはようございますお客様、いつ見ても寝癖みたいな髪型みたいですね」
ラム「おはようございますお客様、いつ見ても寝癖の方がましに見える、センスのない髪型をしてますね」
クラウド「…」
クラウド（髪型のセット変えようかな）
ガチャ
エミリア「おはよう、クラウド、よく寝れた？」
クラウド「悪くない寝心地だ」
レム「聞きましたか姉様、お客様ってば、なんて上から目線なんでしょうか？かっこ悪いです」
ラム「聞いたわよレム、大人ぶってカッコつけてるのよお客様かっこ悪いわ」
エミリア「こら、からかわないの」
クラウド「はー」
クラウド（とりあえず、素振りでもしに行くか）

ガシャン
レム「お客様、そんな狭い部屋では役に立たなそうな剣を持ってどこに行くつもりですか？」
ラム「お客様、そんな狭いところにぶつけそうな剣を背負って屋敷を歩いて欲しくないわ」
クラウド「…」

回想
アパート
隣人「う…うぅ～…」
クラウド「おい大丈夫か？」
隣人「…」
クラウド「入るぞ？」ガチャ
クラウド「‼？」
セフィロス「…」ニヤリ
クラウド「‼？」スチャ↑バスターソードを構えようとする音
ガチャン↑バスターソードをドアの蓋にぶつける音
クラウド「☒」
セフィロス「…」ガバッ‼？↑セフィロスが覆い被さる音
終了

クラウド「…」
レム「図星ですねお客様」
ラム「図星だわお客様」
エミリア「クラウドどこに行くの？」
クラウド「いや、少し運動をな」

庭

クラウド「ぬっつ‼?イヤァッツ‼?」ブン‼?ブン‼?

エミリア「クラウド、起きたばかりなのに、そんなに動いたら、また疲れちゃうよ☒」

クラウド「いつ戦闘になるかわからないっ!だからある程度温めておきたいんだっ!」ブンッッ!ブンッッ‼?

パック「ふわぁああ、」

エミリア「あ、おはようパック」

パック「おはよう、リア、危うく君を失うところだったよ、これも全部、クラウドのおかげだね、そうだ、報酬のデートのことなんだけど

クラウド「…今回はタダでいい」

クラウド「それに、泊まらせてもらったしな、」

レム、ラム「「エミリア様」」

エミリア「あれ?二人ともどうしたの?」

レム、ラム「当主ロズワール様がお帰りになられました」

レム「朝食もレムが用意させていただきましたので、お客様もどうぞ」

エミリア「ありがとうレム、じゃあクラウド屋敷内に戻ろう」

クラウド「あぁ」

ラム「ここが、食卓になるわ、お客様」

クラウド「…」

クラウド(見たところ、広い部屋にとても少人数で使うは大きすぎる、机と椅子)

ベアトリス「上から見ていた感じあれなのよ」

クラウド「なんだ?」

ベアトリス「お前の、朝の運動はカッコつける事が目的かしら?」

クラウド「!」

ベアトリス「図星かしら？」
クラウド「…」
ベアトリス「自分の都合の悪い時は黙り込むなんて、なんて内気な男かしら？」
クラウド「俺はかっこつけてなんかいない」
ベアトリス「図星かしら」
パック「やぁベティ！ちゃんといい子におしとやかにお留守してたかな？」
ベアトリス「‼？」
ベアトリス「にいちゃ～ーー‼？」
クラウド「え！」
ベアトリス「にいちゃの帰りを心待ちにしてたのよ～！今日は遊んでくれるのかしら？」
パック「うんいいよ、四日間待たせてごめんね、今日はいっぱい遊ぼ！」
ベアトリス「わぁーいなのよ～」
エミリア「おったまげたでしょう？ベアトリスったら、パックにべったりなの」
クラウド「所詮子供か」
ベアトリス「子供じゃないのよ‼？」
ガチャ
クラウド「！」
クラウド（誰か入ってきたな）
ロズワール「おんやぁー？ベアトリスがいるなんて珍しいじゃな～～～いの」
クラウド（なんだあいつ、ピエロ見たいなメイクと、金と青のオッドアイ、わからない、あいつは一体この屋敷のどんな立ち位置なんだ⊠）
ロズワール「…」チラ
クラウド「？」
レム「お帰りなさい、ロズワール様」

ラム「お帰りなさい、ロズワール様」
クラウド「‼?」チラ
ロズワール「フフフ」
クラウド（この男がこの屋敷の当主⊠見た目が奇抜すぎて全然わからなかった）
クラウド「会話から聞くと、あんたがロズワールか？」
ロズワール「そう言う君は、例のお客人、クラウド・ストライフ君か～～～な？」
クラウド「あぁそうだ」
ロズワール「まぁ、朝食も出来てるそうだし、ここは会食といこうじゃ～～～ないの」

クラウド「あーむ」ゴクリ
クラウド「悪くない味だ、これを作ったのは…レム…でいいのか？」
レム「はい、お客様、当家の食卓はレムが担当しています」
ロズワール「本当に不思議だ～～～ね、君、ルグニカ王国のメイザース辺境伯の邸宅まで来てな～～んにも事情を知らないんだから」
クラウド「事情？何かまずいことでも起きてるのか？」
ロズワール「まずいも何も、穏当な状況ではないね、現状、ルグニカ王国は王が不在でね、賢人会が国をまとめてる状況な～～んだよ」
クラウド「なるほど、国が王選出でドタバタしてるときに、現れる異国の俺か…俺は不信人物か」
ロズワール「不信も不信、ものすごく怪しい～～ね、更に付け加えると、エミリア様と接触し、メイザース家とも関わりを持ったから～～ね」
クラウド「そういえば、なんで、居候のエミリアのことを様付けで呼んでいる？」
ロズワール「自分よりくらいの高い方を継承で呼ぶのは当然のことな～～ーんだよ」

クラウド「…」チラ
エミリア「！」
エミリア「えっとね、隠してたわけじゃないんだけど、今の私の肩書はね、ルグニカ王国四十二代目の王候補の一人、そこのロズワール辺境伯の後ろ盾でね」
クラウド「なるほど、」
ロズワール「何わどうあれ、クラウド君はものすごい恩人ってわけだ～～～よ、お礼に何かして欲しいことはあるか～～～な☒」
クラウド「お礼か…」
クラウド（報酬をもらうのもいいが、この世界は未知すぎる、ここで、居候として住回せてもらって、王都で、何でも屋をするのもいいが、俺に宣伝なんてできるわけがない、どうする☒）
クラウド「…」
クラウド（そうだ！）
クラウド「俺をここで雇ってくれ」
レム、ラム、エミリア、ベアトリス、ロズワール、パック「…」
ラム「へくち」

レム「それじゃ、お客様、改めクラウド君、使用人に相応しい服に着替えましょう」
クラウド「俺はこのままでいい」
ラム「ロズワール様の使用人となるのに、そんな奇妙な格好は許されないわよ、お客様、改め雲」
クラウド「え？」
ラム「どうしたの？雲」
クラウド「…その雲ってのは俺のことか？」
ラム「貴方以外に誰がいるの？雲貴方は二文字で十分よ雲」
クラウド「…」
レム「それよりクラウド君、　これを着てみてください」

エミリア「えっと…クラウド？」
クラウド「なんだ？」
エミリア「クラウドが、使用人の服をしっかり着て、個性出すのことは、すごく、本当にすごくいいと思ってる！だけど…」
クラウド「だけど…？」
エミリア「その剣は背負ったままなの？」
クラウド「あぁ」

執事クラウドの一日

ラム「ここが貴賓室」

ラム「ここが浴室」

ラム「ここが厨房」

ラム「そしてここがお手洗い」
クラウド「わかった」
ガチャ
ベアトリス「にーちゃすてき！最高の毛並みなのよ～！」
クラウド「…」
ベアトリス「あぁ…」
クラウド「その…なんだ…」
ベアトリス「…」
クラウド「誰にも言わないから安心し
ベアトリス「‼？」ブンッ‼？↑風魔法
クラウド「うぉ‼？」
ガチャン！↑扉の閉まる音
クラウド「…屋敷の扉がどこからでも自室に繋がってるのか」
ラム「これがベアトリス様の扉渡りよ、一度ベアトリス様に気配を消されたら、屋敷の扉を総当たりしないかぎり、見つからないわ」
クラウド「…」
ガチャン
ベアトリス「‼？」
ベアトリス「また正解をひきやがったのよ…！」
パック「すごいねクラウド、２回も扉渡りを破るなんて」

クラウド「悪気はないんだ…失礼する」
ガチャン

ラム「それじゃ、雲、夕食の準備をするわ、料理の経験は？」
クラウド「ない」
ラム「わかっていたわ」
クラウド「じゃあなんで聞いた」
ラム「今日はふかし芋を作るわ、まずじゃが芋の皮を包丁で剥くのよ」
クラウド「わかった」ザクッッ
ぶしゃーーー‼？
ラム「…」
クラウド「…」
クラウド「痛みには慣れてる」
ラム「無様ね雲、剣を背負っているのに、包丁使いはお粗末なものね」
レム「さすが姉様は、野菜の皮むきする姿も絵になります」
レム「…」
クラウド「？」
ラム「レム、よかったら雲の髪を少し整えてやるといいわ」
レム「姉様？」
クラウド「もう髪のことは言わないでく
ラム「髪が気になるからさっきからずっと雲を見つめてるんでしょ？」
レム「…はい、そうです。ちょっと毛量を抑えるだけでも、見栄えが変わると」
ラム「だそうよお言葉に甘えるといいわ、レムの手さばきで天国に行けるから」
クラウド「…嫌なら嫌って言ってもいいんだぞ」
レム「いえ、そんな事は、レムも少し、かなり少し、とても少し気

になるのは事実ですから」
クラウド「…そんなに変なのか」
ラム「ところで雲」
クラウド「なんだ」
ラム「浴槽掃除の後何か？」
クラウド「いや？寝るだけだ」
ラム「じゃあ、後で行くから部屋で待ってなさい」
クラウド「？」

浴室
クラウド「…」ゴシゴシ
ガチャ
レム「…」
クラウド「なんだ？」
レム「お昼の時のお話ですけど」
クラウド「昼？あぁー髪の話か、」
レム「…」
クラウド「…今からか？」
レム「いえ、差し出がましいことを言ってしまったと思い、申し訳ありませんでした。同僚と言ってもクラウド君はエミリア様の恩人で立場が違うのに」
クラウド「気にするな、気になるのは真実なんだろ？俺もこれ以上髪型のことで何か言われたくない。時間ある時に切ってくれ」
レム「承りました」ガタ
クラウド「？」
レム「…」ゴシゴシ
クラウド「手伝ってくれるのか？」
レム「クラウド君は初めての浴室清掃でしたので、一緒にやった方が効率的かと」

クラウド「そうか…」
クラウド「…」ゴシゴシ
クラウド（さて、帰る方法も探して行かなくちゃな、今頃ティファ達が心配してるはずだ…使用人として雇って貰ったのはいいが、屋敷を出て情報を集めなきゃな）ゴシゴシ
クラウド「レム」ゴシゴシ
レム「なんでしょう？」ゴシゴシ
クラウド「明日、村に用事があったりしないか？買い出しとか」
レム「確か香辛料が心許ないので、明日にでも村に行こうと思っていましたけど」ゴシゴシ
クラウド「なら、買い出しは俺に任せてくれないか？俺はルグニカに来る前は配達業をしていた。」えっへん
レム「いいえ、買い出しはレムもついていきます」ゴシゴシ
クラウド「…なんで？」
レム「クラウド君は文字が読めないじゃないですか」
クラウド「…」

クラウド「そういえば、今からラムがくるんだっけ」
クラウド「何しにくるんだ？」
クラウド「…」
クラウド「…」
クラウド「…」
クラウド「／／／」
クラウド（ちょっと待て！まさか‼？いや落ち着け、まだあって数日なのに、いやないこともないんじゃ、ダメだ俺にはティファがいるんだ俺には）
クラウド「ティファが！」
ラム「騒がしいわ雲、もう夜なんだから静かにしなさい」
クラウド「／／／」

ラム「雲、こっちに来なさい」
クラウド「待て‼?俺にはティファが子供達が！」
ラム「何を言っているの？」
ラム「読み書きを教えるから、早く座りなさいっていってるでしょ」
クラウド「…」
ラム「早く座りなさい」
クラウド「…わかった」
ラム「雲が読み書きできないのは見ていてわかったわ。読み書きができなければ、買い物も任せられないし、用件の書き置きもできない、まずは簡単な童話集、これから毎晩ラムが勉強につきあうわ」
クラウド「親切だな」
ラム「えぇ全部ラムが…いいえラムが楽をするためよ」
クラウド「言い直せてない」
ラム「雲のやれることが増えれば、それだけラムの仕事が減る、ラムの仕事が減れば、必然的にレムの仕事も減る、いいことずくめよ」
クラウド「確かにずっと外出の時についてきてもらうわけにも行かないしな」
ラム「じゃあ始めるわよ、ペンを持ちなさい雲」
クラウド「あぁ」
ラム「まずは基本のイ文字から、ロ文字とハ文字はイ文字が完璧になってから」
クラウド「3種類か…流石に漢字よりは少なくあってほしいな…」
カキカキ
（一刀両断）
ラム「そんな絵を描いて遊んでる暇なんてないわ。明日も早いし時間も限られてる…ラムも眠いし」
クラウド「それが本音か…」
ラム「素直なところはラムの美点だと思ってるわ。さぁ始めるわよ」

クラウド「…」カキカキ
クラウド「その…ラム…ありがとう…同僚とはいえ、新人の俺に色々よくしてくれて…いつか役に立つようになるからそれまで待っててくれ」カキカキ
ラム「…」
クラウド「…ラム？」
ラム「…」
ラム「…」ｚｚＺ
クラウド「…」

# 俺がお前の生きた証

村

クラウド「…」キョロキョロ

クラウド「この感じ…故郷を思い出すな…」てくてく

レム「田舎育ちなんですか？」てくてく

クラウド「あぁ、ニブルヘイムって言うんだ」てくてく

レム「聞いたことありません」てくてく

クラウド「だろうな」てくてく

レム「…クラウド君は故郷を抜け出して、なぜルグニカ王国に来たのですか？」てくてく

クラウド「…ただの成り行きだ」てくてく

レム「…そうですか」てくてく

ピタッ！

レム「店の前につきました、レムは買い物をしてきますので、クラウド君はここで待っててください」

クラウド「わかった」

クラウド「…」

クラウド（さて、情報収集と行くか、レムは買い物に慣れてるはずだからきっと早く戻ってくる、なるべく通りかかった人に声をかけていこう）

クラウド「…」

クラウド「…」

クラウド「…」

クラウド（何故誰も通らないんだ…まずいな、このままだとレムが戻ってきてしまう、買い出しなんて毎回行くわけでもないし…どうすれば…）

ペトラ「お兄さんここで何をしてるの？」

クラウド「！」

クラウド（村の子供達か？）

リュカ「うぉぉ‼？このひとでっかい剣背負ってるよ‼？かっこい

いーっ！」
クラウド「‼？」
メイーナ「リュカ、お兄さん困ってるよ」
クラウド「構わない」
ペトラ「お兄さんありがとう！私ペトラ！」
リュカ「俺リュカ‼？」
ミルド「ミルド！」
メイーナ「メイーナ」
ダイン　カイン　「「俺たちはダインとカイン」」
メイリィ「私メイリィ」
ペトラ「よろしく！」
クラウド「あぁ、よろしく、俺はクラウド」
リュカ「クラウド‼？俺たちと遊ぼうぜぇ！」
ミルド「こっちきてよー！」
裾を引っ張る子供達
クラウド「まて！俺はここを離れるわけに
子供達「いこいこー‼？」
クラウド「はぁー、しょうがない」
クラウド「…」

回想
ニブルヘイム

子ティファ「あ‼？クラウド‼？」
子クラウド「…」
子クラウド「…」サッ！
子ティファ「あー、また無視したー」
子クラウド「…」チラッ！
子ティファ「むー！」

終了

クラウド（この村の子供達はみんな仲良いな）
ミルド「ねぇークラウドもっと遊ぼ」
ダイン「遊ぼ遊ぼ‼？」
リュカ「パンツ履き替えろ～」
クラウド「やめろ！ぬがすな‼？」
子供達「あっははははははっ‼？」
クラウド「ふー」チラッ！
メイリィ「？」
犬「？」
クラウド「…」

回想
クラウド「神羅の犬め‼？お前を犬質にしてやる‼？これで奴らも手を出せまい‼？」
犬「クーン」
ナナキ「あおぉーーーーんっ！」
終了

クラウド（あの時の犬には悪い事したな、なんの意味もないが、この犬を撫でよう）サッ！
犬「‼？」ガブッ‼？
クラウド「痛っ‼？」
子供達「あっはははははは‼？」
レム「クラウド君こんなところにいたんですか」
レム「大丈夫ですか？」
クラウド「これは俺への罰だ…気にするな、それより買い物は終わったのか？」
レム「はい、滞りなく」

クラウド（子供達と遊びすぎた…まぁでも、子供達と仲良くなったのは、村に行く理由になる。今日という日を無駄にはしないでおこう）

クラウド「荷物持つぞ、俺の仕事はそれだからな、じゃあ俺は帰る」

ミルド「え～帰るの？」

ダイン「帰らないでよ！」

リュカ「帰るとこあるの？」

ペトラ「バイバーイ」

レム「クラウド君は随分と人気でしたね」

クラウド「子供達には好かれやすい、泣かれる時もあるが」

レム「子供は動物と同じで、人間性に順位付けしますから、本能的に侮っていい相手かわかるんですよ」

クラウド「俺は侮っていい人間なのか…」

クラウド「そのへん、ラムは割と上手くやりそうな気がするな」

レム「姉様は素敵でしょう？」

クラウド「ぐいぐいひっぱってくれるお姉さんみたいな…」

レム「それも姉様の魅力です。レムにはとても…無理ですから、それよりクラウド君、勉強の進み具合はどうですか？」

クラウド「順調だ、ラムの手助けもあるし、ただ、途中で寝るのだけは勘弁してほしい」

レム「姉様は、クラウドのやる気を発奮させようと、あえてそう振舞ってるんですよ。」

クラウド「…」

クラウド「…」ニコッ

レム「？」

クラウド「大切なんだな、ラムのことが」

レム「はい、すごく大切です」

ロズワール邸

クラウド「ふー」ドサッ！
レム「はいはいお疲れ様」
ラム「はいはいご苦労様」
ロズワール「おーやおや？３人とも一緒だったんだーぁね、手間が省けて助かるじゃぁないの」
レム　ラム「「ロズワール様」」ペコリ
クラウド「外出か？」
ロズワール「ご明察、普段の装いだとどーおしても面倒な相手がいるものだから、しかたなーぁく礼服も着るわけだーぁよ。」
ラム「いつ頃お帰りになりますか。」
ロズワール「少しばーぁかり、やっかいな連絡が入ってねーぇ、今夜は戻らないと思うから、ラム、レム、任せたよ」
ラム「はい、ご命令とあらば」
レム「はい、命に変えましても」
ロズワール「君にも任せるよクラウド君。エミリア様のことだけはしぃーっかり頼むよ」
クラウド「任せろ」
ロズワール「では、留守中任せたよ」ビューン‼？
クラウド「飛んだ☒」←お前も飛べるだろ
レム「さぁクラウド君戻りますよ」
クラウド「あぁ」
クラウド「?!」
クラウド（なんだ…なんか気持ち悪い）
レム「クラウド君？」
クラウド（この感覚…死の宣告??そんないつからだ？さっきの村か？それとも帰り道か？今から使用者を見つけるにも、もうすぐ６０秒だ…仕方ない）
クラウド「すまない死の宣告を食らった、俺が倒れた後フェニックスの尾を頼む」
ラム「何を言ってるの？雲、早く屋敷に戻るわよ」
クラウド（そうか、ここは異世界だから俺が使ってきたアイテム達

を知らないんだ…）
クラウド「とにかく、これを投げてくれればいい」サッ！
レム「なんですかこの羽？」
クラウド（もうすぐ６０秒だ…）
クラウド「すまない、頼んだ」
クラウド「!!」
クラウド「？」
クラウド「…」チラッ
レム「…」
ラム「…」
クラウド「…」
ラム「…早く屋敷に戻るわよ雲」
クラウド「…はい」てくてく
クラウド（６０秒たったのに何も起こらない？この感覚は俺の気のせいではない…いやまて…もしかしたらこの世界にしかない魔法なのかもしれない…だったらこの屋敷で魔法に詳しいやつに聞かなければ）

禁書子
ベアトリス「で…なんでここに来るのかしら」
クラウド「すまない、パックに聞こうともしたが、この時間だと流石に寝てて…ここしか当てがなかった」
ベアトリス「目障りなのよ、早く出ていくかしら！」ビュンっ！
クラウド「うぉっ！」
ガチャン!!
クラウド「!!」
クラウド「…」キョロキョロ

クラウド「!!」たったったっ!!
クラウド「頼む教えてくれ!!」ガチャ！
ベアトリス「ふあ～!!」
ベアトリス「しつこいのよ！なんでベティーがお前の命を助けなきゃいけないのかしら」
クラウド「確かに…すまないな…明日パックに聞いてみるとするよ…」しょぼん
ベアトリス「…」
ベアトリス「待つのかしら」
クラウド「？」
ベアトリス「このままにーちゃに有る事無い事言われるのは癪かしら…教えてあげてもいいかしら」
クラウド「…！ありがとう」
ベアトリス「まずお前にかかっているのは、魔法じゃなくて呪術かしら」
クラウド「呪術??」
ベアトリス「一度発動した呪術を解呪する方法はないかしら…発動したら最後それが呪術なのよ」
クラウド（死の宣告と同じか…）
ベアトリス「ただ発動前の術式なら解除は可能かしら」てくてく
クラウド「…」
クラウド「この黒いモヤが呪い？でもどうして左からだけなんだ？」
ベアトリス「呪術には絶対に外せないルールが存在するかしら、」
クラウド「ルール？」
ベアトリス「呪術を行う対象との接触、これが必須条件なのよ」
クラウド「！」
ベアトリス「全く忌々しいったらありゃしないかしら」ぎゅっ！
ベアトリス「終わったのよ、これでもうお前は平気かしら、今もやが出たところが呪術師と接触した箇所、今後の参考にするといいかしら」

クラウド「左手…」
クラウド「!!」
クラウド「あの犬が…!!」
クラウド「子供達が危ない!!」ガチャンッ!たったったったっ!!
クラウド「レム!ラム!」
レム「どうしたんですか、スバル君」
ラム「どうしたの、雲?」
クラウド「俺を村に行かせてくれ!」
ラム「村へ?何しに?」
クラウド「この傷跡を作った犬が俺に呪いをかけた張本人だとベアトリスがいった、あの犬は片っ端から呪いをかけてったんだ、子供達が危ない」
レム「…」
ラム「…」
クラウド「疑ってるのか?だったらついてきても構わない!ただどっちかは、エミリアを守れ」
レム「勝手な仕切りを…そもそもロズワール様のご命令を守るのならば、レムや姉様がクラウド君に付き合う理由は…」
クラウド「確かにない、だがロズワールから俺に出てる命令はそれだけか?」
ラム「わかったわ、雲あなたの独断行動を認める」
レム「姉様」
ラム「レムを同行させるわ」
クラウド「ありがとう」
ラム「レム、そういうことだからお願い。ベアトリス様への確認と、エミリア様の方はラムが守るわ。そっちのこともちゃんと見てるから」
レム「姉様、あまりその目は」
エミリア「クラウド、どこかいくの?」
クラウド「エミリア」
エミリア「大きい声が聞こえたから降りてきてみたら、何があった

の？」
クラウド「心配するな、少し用事を済ませてくるだけだ」
エミリア「また危ないことしそうな顔をしてる」
クラウド「安心しろエミリア、俺は強い、必ず帰ってくる」
エミリア「わかりました。無茶も無理もしないでねって言ってもきっとダメなのよね。」
エミリア「…」サッ
クラウド「？」
エミリア「あなたに精霊の祝福がありますように」
クラウド「今のは？」
エミリア「お見送りの言葉よ。無事に帰ってきてねって、そんな意味」
クラウド「ありがとうエミリア。レム行こう」
ガチャン
クラウド「！」たったったっ！
レム「どこいくんですか？」
クラウド「移動を効率的にするんだ」
ブゥぅぅウゥッぅぅんっっっっっっ!!!!
クラウド「のれ」
レム「わかりました」
ブゥぅぅっぅウゥぅぅぅんっっっっっっ!!!
レム「驚きました、クラウド君の故郷にはこんな乗り物があるんですね」
クラウド「しっかり捕まってろ」
ブゥぅぅぅぅんんっっっっっ!!!!

村

ブゥウゥウゥンっっっっ!!
クラウド「見えてきた！」

レム「何やら穏やかじゃないですね…」
クラウド「よし、ついた」ガチャンッ‼?
レム「何があったんですか?」
若者「え…ええ、村の子供が何人か見当たらなくて、大人連中で探し回ってるところでして」
クラウド「遅かったか…」
クラウド「…」
クラウド「あそこか‼?」たったったっ‼?

レム「結界が切れてる」
若者「あっ」
クラウド「結界が消えるとどうなる?」
レム「魔獣が結界線を超えて来てしまいます」
クラウド「魔獣?モンスターか⊠」
レム「いえ、魔獣は魔女が生み出した生物で、魔力を持つ人間の外敵です。森は魔獣の群生地対ですから」
クラウド「群生地帯…子供達は森の中か、村人達に伝えろ!」
若者「あ…はい!」
クラウド「!」だっ‼?
レム「クラウド君どこへ?」
クラウド「子供達を助けに行かないと」
レム「待ってください!そんな判断を勝手に…ロズワール様がご不在の機に…これがお屋敷を狙った陽動でないと断言できますか⊠」
クラウド「その為のラムだ…それに屋敷にはパックもベアトリスもいる。子供達は今ピンチって言うのは確かなんだ、もし屋敷が襲われればフェンリルで戻れば良い、レム行こう」
レム「どうしてそこまで…クラウド君とこの村にどれほどの関係が…」
クラウド「ペトラは…」
レム「?」

クラウド「都で服をつくる仕事がしたいんだ。リュカは村一番の木こり、ミルドは花で冠作って母にプレゼント、メイーナはもうすぐ妹が産まれ、ダインカイン兄弟はどっちがペトラを嫁にするか争ってる、俺はもう奴らの事を知ってる、あいつらは俺の大切なものなんだ…1人でも欠けたらダメなんだ」

レム「仕方ないですね、レムの命じられてる仕事は、クラウド君の監視ですから」

クラウド「ふっ」

レム「…」ガラン

クラウド「フレイユか、中距離は任せた」

レム「はい」

クラウド「よし、行くぜっ‼?」

レム「すんすん…近い…生き物のにおいがします」

クラウド「子供達か?」

レム「わかりませんが、獣臭くはありません」ダッ!

クラウド「!」ダッ!

クラウド「‼?」

クラウド「子供達だ!」

ペトラ「はぁ…」

クラウド「よかった、生きてる」

レム「いえ、今はまだ息がありますが、衰弱がひどいです、このままじゃ」

クラウド「衰弱…呪いか…レム解呪はできないのか?」

レム「レムの腕ではとても…せめて姉様がこの場を見てくれていれば…とにかく気休めでも治療魔法をかけます。落ち着いてから運び出しましょう」

クラウド「そうだな」

ケアルガ→全体化

レム「!」

クラウド「あくまで気休めだ…」

レム「クラウド君は水魔法の使い手なんですね…」

クラウド「…水？何の話をしている。ケアルガは回復魔法だぞ」
ペトラ「クラウド…？」
クラウド「起きたかペトラ、よかった」ニコッ
クラウド「待ってろすぐに村に戻して
ペトラ「1人…」
ペトラ「奥にまだ1人…」
クラウド「！」キョロキョロ
クラウド「レムその子たちを村に！俺はもう1人の子供を探しに行く」
レム「ま、待ってください、危険すぎます。それに魔獣に連れて行かれたならもう…」
クラウド「今ペトラは自分の事より友達の事を優先した…助けてあげて欲しいんだ…俺は行く！」
レム「欲張りすぎて、拾って戻れるはずだったものまでこぼれ落とすかも知れませんよ」
クラウド「安心しろ、俺は強い」
レム「相手の脅威も測れていません。村人がいつ合流するかも…最悪レムがクラウド君を見つけられない可能性だってあります」
クラウド「…危なくなったら、」
サッ
レム「その宝石はいったい？」
クラウド「離脱のマテリアだ、危なくなったらこれで逃げる、レムも村に行く途中襲われたら使うんだ、これで安全だろ？」
レム「何をふざけた事を
クラウド「いいから待て！」
レム「‼？」
レム（宝石を持った時知らない魔法が流れ込んできた？エスケプ？知らない魔法ですが、この魔法を使えば必ず逃げ切れる気がします。こんな便利な物をどうしてクラウド君は持っているのか？わからないことだらけですが）
レム「わかりました、子供達を預けたらすぐに合流します。合流の

件ですが心配しないでください…レムはクラウド君を絶対に見つけられます」
クラウド「わかった、子供達は任せた‼?」ダッ！
レム「気をつけて下さいね」

クラウド「いた！」ダッ‼?
クラウド「おい！大丈夫か⊠」
メイリィ「ん…」
クラウド「待ってろ」
クラウド　ケアルガ↓メイリィ
クラウド「気休めにしかならないが、我慢してくれ」
クラウド「早く村に戻ろう」
クラウド「‼?」
ウルガルム「グルルルルっ！」
クラウド「‼?」キョロキョロ
ウルガルムの群れ「グルルルルッッ‼?」
クラウド「エスケプで逃げるにしても数が多すぎるな…」スチャ
クラウド「かかってこい‼?」ジャキン‼?
ウルガルム「グルァ‼?」グァッ！
クラウド「ふんっ」サッ！
クラウド「はっ‼?」スパッ‼?
ウルガルム「ギャオオオンッッッッ‼?」
クラウド「‼?」ダッ‼?スイー
クラウド「はぁぁぁぁあっっっっ‼?」グルンッ‼?
クラウド「でりゃっ‼?」ズババッ‼?
ウルガルム「「「ギャオオオンッッッッ‼?」」」
クラウド「ハッ‼?」

クラウド　ブリザガ→全体化
カッチン‼?
パリンッッッッ‼?
クラウド「よし！」
クラウドエスケプ

村人「?」
村人「子供達だ‼?」
レム「…」
村人「ぁぁぁぁ！ありがとうございます。」
レム「いえ、まだ1人残っています…」
村人「本当だ！メイリィちゃんがいない」
レム「では…」ダッ‼?
レム「…」スンスン
レム（魔女の匂い）
レム「そこですね、クラウド君」たったったっ

クラウド「‼?」たったった‼?
ウルガルム「ガウッガウっ‼?」
クラウド（何故だ！何故あいつらは俺達を執拗に追いかけてくる☒
それにさっきより数が増えてる…何故だ。）
クラウド「！」
ウルガルムの群れ「「「「グルルルルッッッッ‼?」」」」
クラウド「しつこいぞ‼?」スチャ
クラウド「！」ジャキン

ウルガルム「グルァッ‼?」
クラウド「こい‼?」
ドンッ‼?
ウルガルム「…」ブシャァッッッッ‼?
クラウド「‼?」
レム「子供達は無事村に戻しました」
クラウド「仕事が早いな」ズバッ！
レム「はい、クラウド君がくれた宝石のおかげで簡単に村に着くことができましたから」グシャ‼?
クラウド「じゃあ同じように村に戻ろうっ‼?」
レム「はい」
レム「‼?」
レム「クラウド君‼?」バッ‼?
クラウド「うっ‼?」ゴロゴロッ‼?
クラウド「レムッ‼?」ダッ‼?
クラウド（油断した…まさかこんな強力な魔法を打ってくるモンスターがいたなんて…）
クラウド　ケアルガ→レム
クラウド「レム‼?立てるか⊠」
ウルガルム「「グルルルルッッッッ‼?」」
クラウド（囲まれたか！）ジャキンッ‼?
レム「…」ユラユラ
クラウド「‼?」
クラウド（レムの様子が何かおかしい）
クラウド「大丈夫か?」
クラウド「角⊠」
レム「フフッフフフ…アハハハッハハッハハハ…」
クラウド「レム…?」
レム「アハハハ…アハハハ！」ブンッ！
クラウド「‼?」ヒュンッ！
レム「魔獣！魔獣！魔獣！魔獣！魔獣！魔女‼?」グシャ‼?グシャ‼?

ウルガルム「グゥ…」
レム「魔獣！魔獣！魔獣！魔獣！フフ…フフフ…アハハハッ…アハハハ！アハハハッ！」グシャ！グシャ！
クラウド「鬼だ…」
クラウド「レムッ！正気に戻れ‼？」
レム「フフフッ」チラッ
犬「グルルル！」
クラウド「あれは俺の手を噛んだ…」
クラウド「‼？」ダッ！
クラウド「レムッ‼？」ドンッ
ウルガルム「「グルルルッ‼？」」
レム「あ…」
レム（魔女の匂い…‼？）
レム「…☒」ぱちぱち
クラウド「ぐぅ…‼？あっ‼？うぐっ‼？」
ウルガルム「「ガウッガウッ」」ガブガブ
クラウド「う…う…」スチャッ
クラウド「はぁぁぁぁッッッッ‼？」ブンッ‼？
ウルガルム「「「ガウッ‼？」」」ヒュン‼？
クラウド「あ…あぁ…」
レム「クラウド君！」ダッ！
レム「酷い…肉が食いちぎられてる…」
クラウド「はぁ…はぁ…このくらいどうってことない」
クラウドケアルガ→クラウド
レム（すごい…一瞬肉体が再生していく…でも…）
レム「それだけ強力な魔法を使えばマナの消費も激しいでしょう。無理はしないでください…クラウド君が倒れたらレムの負担が増えます」
クラウド「そんな無様な姿は晒さない」

レム「…諦めるんですか？助ける方法はほかには…」
ベアトリス「…かしら。あとはお前の好きにするがいいのよ…」
レム「必ず…助けます」

クラウド「…俺は気を失ってたのか…？」
クラウド「…」
クラウド「…痛っ！」
クラウド「やっぱりか…」
クラウド（この世界に来て、自分の服装を見てから想像はしてたが…明らかに弱くなってる…あのレベルのモンスターに襲われて気を失うなんて…）
パック「やあ、おはようクラウド昨日は散々だったみたいだね？」ひょこ
クラウド「たいしたことじゃない」
パック「そうかい？肉体は五体満足だけど、服に獣に食いちぎられた解析があるねー？結構苦戦してたんじゃない？」
クラウド「…」
パック「図星かな？まあ治療魔法はなかなかなものみたいだけど、今日は安静にしてなよ？じゃないと僕の可愛い愛娘が心配しちゃう

から」
ガチャ
エミリア「クラウド☒」
クラウド「噂をすればってやつか？」
エミリア「大丈夫なの？そんなにボロボロになって☒」
クラウド「ボ、ボロボロになったのは服だけだ…肉は食われてない‼？」
パック（あ、嘘ついた）
エミリア「そうなの？でもあまり無理しちゃダメよ。クラウドは昨日すごく頑張ったんだから今日は安静にしてなくちゃ」
クラウド「あぁわかったよ。ただ」
エミリア「どうしたのクラウド？」
クラウド「ちょっと村の様子を見させてくれ」
ガチャ
ラム「あら、ロズワール様の使用人に相応しくない無様な服ね雲」
クラウド「普通におはようじゃだめなのかラム？」
ぐぅぅぅぅぅ
ラム「服をだめにした上に、食べ物をせがむなんてあさましい」
クラウド「そういえば夜何も食べてないからな」
ラム「犬に噛まれて犬が写ったんじゃないかしら？」
クラウド「どう言う状況だ」
ラム「食らいなさい」
クラウド「熱っ‼？」
ラム「ラム特性のふかし芋蒸したてよ」
クラウド「いきなり口に突っ込んでくるな」
ベアトリス「ちょっといいかしら？」
クラウド「☒」

ベアトリス「お前、もうすぐ死ぬのよ」

クラウド「…⁉？どう言う事だ☒」
ベアトリス「ウルガルム達の呪いが重複して、解呪が困難になってるかしら」
クラウド「…方法はあるだろう？」
ベアトリス「あるにはあるかしら。」
クラウド「それを教えてくれ」
ベアトリス「呪いをかけたウルガルム達を一人残らず抹殺する、呪いを発動するものがいなければお前が死ぬこともなくなるかしら」
クラウド「わかった」
ベアトリス「やるつもりかしら？」
クラウド「他に解決策がないならこれをやるしかない」
クラウド「…」
クラウド「そういえば、レムの姿が見当たらないあいつは☒」
ベアトリス「…」
ベアトリス「お前が逆の立場ならどうするかしら？」
クラウド「…⁉？」

レム「助ける方法はないんですか⁉？」

ラム「聞き捨てなりませんベアトリス様！」
クラウド「…ラム！」
ラム「⁉？」ダッ⁉？
クラウド「…」
クラウド「ラムも…レムのこと…大切なんだ…よし」ダッ⁉？

クラウド「ラム⁉？乗れ⁉？」ぶぅぅぅぅぅぅん！
ラム「…雲⁉？」

クラウド「ラム、考えなしに森に突っ込んだわけじゃないんだろ？教えてくれレムの位置を」
ラム「ラムには千里眼…ラムと波長が合う動物の視界を見る能力があるわ」
クラウド「監視カメラみたいなものか」
ラム「これでレムを見つけ出す…それまで走り続けなさい雲」
クラウド「…」コクッ
ぶぅぅぅぅぅん‼？

レム「…‼？レムが…レムがやらなきゃ…傷つくのはもうレムだけで…」
レム「うおぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぁ‼？」鬼化

ラム「いたわ‼？その木を右に曲がって！」
ウルガルム「「「ぐるるるるる」」」
クラウド「チッ」
クラウド（どうする轢くか？）
ブンッ！
ウルガルム「「「ぐわぁぁぁぁぁぁぁ」」」
クラウド「…！お前今のはエアロか？」
ラム「ラムは少し強烈な風魔法が使えるわ。敵はラムに任せて貴方は足になりなさい雲」
クラウド「ありがとう！」きゅゅゅゅゅゅっっ！
クラウド「いた！レム‼？」
レム「…」ギロッ
クラウド「…またツノが…ラムお前も姉ならあのつの出せるだろ☒」

ラム「ラムには無理ね…！ラムはツノなしだから、それよりレムは重傷よこれ以上戦わせるわけにはいかないわ」
クラウド「落ち着かせないと行けないのか…」
クラウド「ラム！レムの動きを封じる事はできるか？」
ラム「何か考えがあるのね…信じるわよ」
ラム「…！」ブンッ！
レム「‼？」
クラウド「いまだ‼？」
スリプル→レム
レム「…」ｚｚｚｚ
クラウド「レム！」ギュッ
ぶぅぅぅぅぅん‼？

レム「…！」
レム「姉様☒クラウド君☒」
ラム「起きたのねレム！本当手間のかかる妹だわ」ニコッ
レム「どうして…どうして…？クラウド君と姉様が来てしまわれてわ意味がない…レムが…レムが一人でやらなきゃ…レムは何も変わってない…レムのせいで…姉様もクラウドも…」
ラム「レム…」
クラウド「やめろ」
レム「クラウド君…？」
クラウド「そんなこと言うのもうやめてくれ」
クラウド「俺もレムみたいに自分のせいで周りに迷惑がかかると思って、ずっと一人で頑張ってたことがある」
クラウド「みんなのためにと思ったことでも、それはみんなにとって得でもなんでもなかった…レム…お前がラムを愛しているのは知っている、でもそれはラムも同じなんだ…」
レム「…」

ボスガルム「ぐるるるるッ」
クラウド「囲まれたみたいだな…だが好都合だ」
ラム「何か考えがあるのね」
クラウド「あぁ…ここからは俺がやるラムはレムを」
ラム「わかっているわ、行くわよレム」ダッ！
レム「ちょっと姉様！」
ボスガルム「グルルルルル」
ウルガルム「「「「グルルルルル」」」」
クラウド「…」
クラウド「いくぜ‼？」
クラウド「はぁあ‼？」
ウルガルム「ぐあぁ！」

レム「姉様戻りましょう！あの数だとクラウド君は」
ラム「雲の犠牲を無駄にするの、ラム達は雲の為にも逃げるのよ」
レム「お姉ちゃん‼？」
ラム「‼？」
レム「…」ダッ！
ラム「レム!!」

レム「いた！クラウド君‼？」
レム「‼？」
クラウド「…」ピコンッ！
レム（クラウド君の体が蒼もやに包まれてる？）
クラウド「…」グッ！
クラウド「しゅっ‼？」
破攻撃↓ボスガルム
ボスガルム「ぐあぁぁぁぁ‼？」
レム（クラウド君の剣から巨大な刃が？いやそれだけじゃない、ボ

スガルムから小さな刃が残りのウルガルムの方へ飛んでいく）
ウルガルム「ぐぁぁぁぁぁ!!?」
ウルガルム「ぐぁぁぁぁぁ!」
クラウド「これで全部か？」
レム「クラウド君…」
クラウド「!!?」
クラウド「レム…」
ウルガルム「グルルルル」
クラウド「!!?」
クラウド（まだ一匹!!?）
レム「!!?」
レム「アルヒューマッ!!?」
ウルガルム「ぐぁぁぁぁ」
レム「!」
クラウド「レム…」
クラウド「助かった」

クラウド（それから俺達は、ウルガルムの群れを全滅させ、呪いの発動元を断つことに成功した、今俺はロズワール邸の屋敷にて身を休め、目覚めた所だった）
レム「…」
クラウド「レム…」
レム「起きたのですねクラウド君」ギュッ
クラウド「…」ギュッ
クラウド「これは俺が…？」
レム「いえ、レムが繋いでいたかったので…」パッ
クラウド「そうか…」
レム「あの…ごめんなさい、レムのせいでお手を煩わせてしまい…」

クラウド「気にするな」
レム「レムは、非力で無力なのにどうしてレムにだけツノが残ってしまったのでしょう？姉様にツノが残っていればクラウド君だってこんな事には…」
クラウド「…」

回想
ザックス「ソルジャーの…俺の誇りも…全部やる…クラウド…お前が…俺の生きた証だ…」
クラウド「ザックス…」
ザックス「…」
クラウド「う、あぁあうわぁぁぁぁぁあ‼？」

回想終了

クラウド「レム…無いものを悔やんだってしょうがないんだ…残された俺達は、その人から与えられたものを受け取って生きてくしかないんだ…俺達がその人の生きた証だからだ…」
レム「クラウド君はにもそんな人がいたんですか？」
クラウド「…」
クラウド「俺には昔ザックスと言う親友がいた、故郷で一人だった俺のはじめての友達だ…だがザックスは俺を助ける為に一人で戦い命を落としてしまった…」
クラウド「でもあいつは死ぬ前に、お前は俺の生きた証だって…その言葉が今の俺を突き動かしているんだ…」
クラウド「まぁ、ラムは別に死んでなんか無いが、ラムだってそう思ってるはずだ」
レム「レムが…姉様の生きた証⊠」
クラウド「ラムがなんでツノがないのかなんて俺は知らないし、興味ないね。だがお前がそこまで悔やむほど、ラムは気にしてないと思う」

レム「それでもレムは…姉様の代用品、姉様にツノが残っていれば、レムはいらない存在なんです…」
クラウド「お前はお前だ」
レム「でもレムは姉様みたいには…」
クラウド「あの時、なんで俺のところに戻ってきた？」
レム「！」
クラウド「あの時レムが戻ってきたのは、ラムの代わりとしてか？」
レム「…違います」
クラウド「生き残っていた魔物から俺を助けてくれたのはラムの意志か？」
レム「‼？」
クラウド「お前はお前なんだ…お前のお陰で俺は襲われずに済んだそう言う事なんだよ」
クラウド「ありがとう、レム」
レム「クラウド君…！」
レム（レムは…レムはなんだ）
レム「…」ニコッ

「…」
「喪失がお前を強くする…」
「フッフッフ」
「その時私はお前の前に現れるだろう…」
「それまで待っていろ…」
???????????????

セフィロス「クラウド…」